

## 郊外部再生・活性化特別委員会行政視察概要

1 視察月日 令和4年7月21日（木）～7月22日（金）

2 視察先及び視察事項

(1) 兵庫県神戸市

市街地西部地域活性化事業について

(2) 大阪府大阪市

大阪パークビジョンについて

3 視察委員

委員 二井 くみよ

## 視察概要

### 1 視察先

兵庫県神戸市

### 2 視察月日

7月21日（木）

### 3 対応者（役職名）

市会事務局総務課担当職員（挨拶）

企画調整局未来都市推進課長（説明）

### 4 視察内容

#### （1）市街地西部地域活性化事業について

##### ア 市街地西部地域の特性と課題

都心の周辺に位置しており、住宅や工場が混在するエリアである。

昭和50年代以降の産業構造の変化による人口の減少や高齢化、木造住宅等建築物の老朽化・空き家の増加などが課題といえる。

##### イ 目的及び背景

市街地西部地域の活性化や地下鉄海岸線の乗客増を図るため、多くの方に参画してもらいながら、幅広い視点や発想を受けて、効果的で持続可能性のある活性化策を一つでも多く創出していくことを目的に、平成26年度より当該プロジェクトが実施された。

また、事業提案を公募し、優れた提案については、神戸市の活性化プロジェクトに指定し、事業の実現に向けて神戸市としてさまざまなサポートや連携を行ってきている。

##### ウ シタマチコウベ公開に至る経緯や民間と行政との関わり

平成27年5月に設置された、有識者等による地下鉄海岸線・市街地西部活性化コンソーシアムにおいて、次のような意見があった。

①地域資源の切り口の一つとして、アートがあること。

②他地域の事例から、アーティスト・クリエイター等の集積が地域の新しい価値観や多様性をもたらし、まちの魅力向上につながること。

③地域に興味を持ったアーティスト・クリエイター等のためのスタートアップ支援が必要であること。

これらを踏まえて、他事業と併せてプロモーションを行うための

WEBサイト、シタマチコウベを、神戸市の施策として実施することになった。

## エ 質疑概要

Q 平成 29 年度に全ての事業について実施期間を終了しているとのことだが、各プロジェクトは現在どうなっているのか。また、実施期間を経ての成果と課題は何か。

A 事業化後は、事業者の自立的な実施に任せており、市が逐一状況を把握していないが下町芸術祭（2年に一度開催）や市民交流イベント神戸中央市場の魚河岸デーなど一部の事業は継続して実施されている状況である。

本プロジェクトの実施により地域のニーズが掘り起こされ、事業者の後押しができたという点で成果があったと認識しているが、一方、継続的な事業の実施には課題があると考えている。

Q 空き家利活用のプロジェクトを通して、神戸市全体や他都市でも汎用的に活かせる成果はあるか。

A 空き家利活用のプロジェクトである空き縁ネットとして、下記のスキームで活動を継続している。

### ①貸し手の広げ方

自治会と連携し、持ち家や借家が空き家となりどう活用するか困っている所有者からの情報を得る。

### ②借り手の広げ方

難民支援のNPO、居住支援法人（DV被害者等）などと連携している。また、地域福祉団体のスタッフが居住するケースもある。

Q シタマチコウベ掲載記事の選定方法や更新頻度について伺いたい。

A 掲載記事の選定方法について、4～5月の間に取材スケジュールや記事の内容等を事業者に検討・提案してもらい、毎月の打ち合わせの中で神戸市の意向を伝えるとともに、記事の内容の見直し等必要な調整を行っている。

## （2）委員所見

地下鉄海岸線沿い及び市街地西部地域の活性化の最大の目的は夜間人口・昼間人口・交流人口の増加と位置づけられている。まずはこうして目的を明確化し、官民連携で共有した上で、プロジェクトチームを設立してハードとソフト両面から様々な事業を企画して実際に実施

していることが、地域の活性化に結び付いていると感じた。現に、神戸市も人口が減少している状況下において、当該エリアの兵庫区は人口が微増している。

また、神戸市の施策として実施されているシタマチコウベは、サイト・紙媒体ともに読みやすく洗礼されており、アーティストや魅力的な飲食店を呼び込むきっかけ作りにも貢献している。

また、作成者は地元出身のwebデザイナーということもあり、地元地域を盛り上げていきたいという思いと熱量を感じた。

官民が連携することにより生み出されている相乗効果がしっかりと感じ取れる様々な市街地活性化プロジェクトは、本市の郊外部活性化の取組において参考にできるものがある。



(神戸市役所入り口正面)

## 視察概要

### 1 視察先

大阪府大阪市

### 2 視察月日

7月22日（金）

### 3 対応者

市会事務局総務担当課長代理（挨拶）

建設局公園緑化部調整課長（説明）

建設局公園緑化部調整課公園活性化担当（説明）

### 4 視察内容

#### （1）大阪パークビジョンについて

##### ア 目的

大阪府と大阪市の広域的利用が見込まれる公園緑地を対象として、ウィズコロナ・ポストコロナ時代の公園緑地を取り巻く社会情勢や環境を踏まえ、互いの公園緑地が持つ特性を活かして、これまで以上に各々の取組を連携・補完し、府域に対してその相乗効果を波及させ、大阪の公園緑地の魅力を高めていくための方向性として取りまとめられている。

##### イ ビジョンの対象

市内、府内に大小様々な公園があるが、本ビジョンの対象となる公園緑地の規模は概ね10ヘクタール以上のもので、都市公園や府民の森などの行政が土地の担保を有する施設緑地が対象となっている。

##### ウ 質疑概要

Q 本ビジョンの目的にある府と市の互いの特性について、具体的にどのような特性を持っているのか。

A 大阪市は市内にほとんど自然がないという特徴もあり、民間事業者と連携して魅力向上の取組を図りながら運営しており、都心部での管理運営を得意としている。

一方で大阪府は郊外部や自然の多いエリアも全域をカバーしていることから郊外型の管理運営のノウハウを蓄積している。

Q 府が市に、市が府に、それぞれ具体的にどのような点を補完することで相乗効果が得られると考えられるか。

A 市は府に対して強みである民活のノウハウを共有し、府は市に対して公園全体の管理運営の方法や指定管理のノウハウを共有することで相乗効果が得られると考えている。

Q 本ビジョンの観光振興や情報発信の取組について、SNSでの情報発信やプロモーションの充実に向けた取組や課題はあるか

A これから情報発信について検討していく段階ではあるが、従来市域の各公園にホームページがあり、いつどこでイベントが行われるかなど、調べにくい状況であった。

こうした点を是正し、市の広報を担う大阪観光局とも連携をしながら、各公園を一括で検索しやすいホームページやアプリの作成を今後検討していく。

また、市のみならず府とも連携しながら情報発信の方法を協議していく。

Q 2025年の大阪関西万博に向けた大阪パークビジョンとしての取組及び現状で感じている成果や課題は何か。

A 開催についての反対論等もなく、開催まで1000日を切った中で機運の高まりを実感している。公園は、万博の前までに大阪城公園に隣接した難波宮跡の整備をする計画がある。

また、新しい市内の街うめきたも万博の前に先行して一部まちびらきを行う。うめきたは20ヘクタールのうち8ヘクタール以上に緑を入れるというコンセプトがあり、こうした事業も並行して進めながら万博も盛り上げていきたいと考えている。

## (2) 委員所見

大阪パークビジョンを通して、市と府が密接に日頃からコミュニケーションを取り、相互に情報共有を図りながら切磋琢磨し、互いの強みを活かすことで、公園緑地の魅力を高めていこうと取り組んでいる。

府と市の関係性が良好であり、最終的には人と人との繋がりが大切であるという市職員の言葉に象徴されるように、取組に対する熱意や温かみを感じた。

本市は大阪市管理のような都市型の公園もあれば、大阪府管理のような郊外型の公園もある。大阪パークビジョンでの都市型と郊外型の連携による相乗効果や具体的な取組は、本市においても参考にできる点がある。



(大阪市役所入口正面にて)



(大阪万博パビリオン模型)